

## 令和5年度 第2回 清瀬市史編さん委員会 議 事 要 旨

日 時： 令和6年3月22日（金）  
午後2時～3時  
場 所： 市民協働ルーム（本庁舎2階）  
出席委員： 根岸茂夫、浅倉直美、吉田律人、高久 舞、黒尾和久、齊藤隆雄、齊藤靖夫、  
（7名）  
欠席委員： 栗山 究、黒川徳男、黒田一美、谷口康浩、今村広司（5名）  
事 務 局： 経営政策部参事、市史編さん室職員3名（4名）

### 《次 第》

1. 開 会
2. 令和5年度活動報告
3. 令和6年度活動計画
4. 『清瀬市史 5 資料編 近代』について
5. 通史について
6. 市史講演会について
7. その他
8. 閉 会

### 《配布資料等》

1. 会議次第（令和5年度 第2回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 『清瀬市史 5 資料編 近代』目次構成ほか

### 《審議経過》

#### 1. 開 会

委 員 長            定刻となりましたので、これより令和5年度第2回清瀬市史編さん委員会を開催いたします。  
                         刊行物も今年また資料編と市史研究の2冊が出るということで順調に進んでおりますけれども、今後ともよろしく願いいたします。  
                         それでは、委員会を進めてまいります。議事に入ります前に、配布資料について事務局よりご説明をお願いします。

事 務 局            配布資料説明

#### 2. 令和5年度活動報告

委 員 長

では、議事に入ります。まず、各部会長から、活動報告についてお話ししたいと思います。考古部会は、部会長の谷口先生が本日ご欠席ですので、事務局からお話いただけますでしょうか。このたびの刊行物であります『清瀬市史 7 資料編 考古』の校正稿を回覧で委員のみなさまにご覧いただいておりますが、内容もすばらしいものだと思います。

事 務 局

『清瀬市史 7 資料編 考古』は、3 月 29 日納品予定となっております。活動報告につきましては、市史編さん室で考古部会を担当しております職員からお話させていただきます。

考古部会の今年度の活動について簡単にご報告します。

いま回覧でご覧いただいておりますように『清瀬市史 7 資料編 考古』の刊行年度でしたので、執筆と編集に主な時間を割いてきました。

今年度の調査としては、2 件行いました。ひとつは下宿内山遺跡出土の、古代の墨書（ぼくしよ）がある桶蓋（おけふた）について、赤外線撮影で墨書を再確認する調査を行いました。考古部会で中世を担当されている専門調査員先生方に行っていただいたのですが、報告書刊行段階以上のことはわかりませんでした。ただ、これまで赤外線撮影はしていませんでしたので、今回の調査によって、新たな墨書は見当たらないことがわかったことが成果です。

もう 1 件は、縄文土器の種子圧痕の追加調査です。中里下戸遺跡の縄文時代の資料と、縄文時代中期の拠点集落であります野塩前原遺跡の出土土器について種子圧痕の調査を行いました。この成果はこのたびの資料編第 4 章第 5 節に掲載しています。以上です。

委 員 長

ありがとうございました。  
では、次に古代・中世部会のご報告を浅倉先生お願いします。

古代・中世部会長

古代・中世の資料編刊行は、コロナに入る年のことでずいぶん前のことのように思われます。最初の刊行でしたので、予定していた資料が総て揃わなかったこともあり、その後の活動として、今年度は新潟での調査を一度行い、5 点の文書を調べてまいりました。その他には刊行のために多くの調査で撮影した写真の整理・分類作業を行っています。複数の専門調査員が撮影した写真を文書ごとにまとめ、1 件、1 件、名前をつける整理・分類作業を、令和 5 年度も続行しました。これらのデータは清瀬市の貴重な財産となりますので、少しずつですが作業を進めているところです。

また、通史に向けて部会を 2 回開き、情報交換と執筆にあたっての検討を少し進めています。以上です。

委員長／  
近世部会長

ありがとうございました。  
まず各部会長からお話いただき、ご意見ご質問は、のちほどまとめてお受けしたいと思います。  
では続いて、近世部会について私からお話いたします。  
近世部会は、資料編、補遺を刊行したのち、今年度は通史に向けて編集を続けております。月 1 回程度集まり、目次の編成、分担、さらに現在では分担した部分の進捗状況を確認し、問題点や新しい史料の検討な

どについて、通史執筆予定者が情報共有する活動をしております。

通史での近世部分は 400 ページ程度を予定し、章と節の題名は確定している状況です。1 章が「村のなりたち」、2 章が「村のすがた」、3 章が「村のわくぐみ」、4 章が「村の自治と負担」、5 章が「鷹場の村」、6 章が「村の文書」、7 章が「村のくらし」、8 章が「村のなりわい」、9 章が「ひろがる地域と自治」、10 章が「災害と救い」、11 章が「旗本と村」、12 章が「寺社と信仰」、13 章が「村の手習いと俳諧文明」、14 章が「講と旅の見聞」、15 章が「村の幕末」というような、やさしい題名になっております。

村が成立し、新田開発によって村が広がる、そのなかで、村の人々の生活が安定していき、また村のなかで自治の伝統が生れていき、次第に他の地域とつながっていく。さらに、さまざまな災害、村の中での問題を解決しながら近代に向かっていく、そうした構成になっています。

近世部会については、以上です。

委員長

では、次に近代部会について、吉田先生お願いします。本日、現代部会の黒川先生がご欠席ですので、吉田先生には近代、現代両部会について、お願いいたします。

近代部会長

令和 5 年度も、現代部会と近代部会は合同で活動しました。毎週土曜日を作業日に設定し、作業室で史料の翻刻作業を進めています。

令和 5 年度の特徴としては、コロナ禍でできなかった各アーカイブの調査を行いました。特に東京都公文書館に行きまして、清瀬関係の文書類のコピーを入手し、その翻刻作業を進めています。また、これまで未整理だった出下（いでした）家文書の目録整理、さらにその翻刻作業を進めており、次年度の資料編刊行に向けた作業を着実に進めているところです。

また、専門調査員が 2 か月から 3 か月に 1 度集まって部会を開き、それぞれの進捗状況の確認、資料編刊行にむけたスケジュールの調整を進めました。

資料編の内容については、のちほどの議題でお話したいと思います。

委員長

ありがとうございました。では、次に民俗部会について、高久先生お願いします。

民俗部会長

令和 5 年度は、部会を 2 回開催しました。3 月 1 日に 2 回目の会議を行い、令和 5 年度の後半部分の調査の進捗具合などをそれぞれの専門調査員から発言いただきました。

年度初めにお話ししました通り、コロナが落ち着いたことからそれぞれの祭を中心に調査をしております。特に中里の調査が進んでいます。中里講社の「星まつり」、「みそかっぱらい」の調査、雑木林の調査など行っているところです。

また、3 月から稲荷講に詳しい専門調査員に入ってもらいました。特に下宿は稲荷講が盛んであることから、加わっていただくことにいたしました。

民俗編は、令和 8 年度に刊行予定なので、スケジュールを確認しまして、令和 8 年 5 月には原稿が出せるようにしようと話しているところです。章立て、基本的な構成も民俗部会で検討を加えているところですが、

村の民俗、マチの民俗、団地の民俗、さらには文化財と資料、というような構成を考えています。

あとは、委員会全体で考えていかななくてはならないこととして、個人名をどこまで出すかという問題があります。部会では、個人名はなるべく出したほうが具体的な名前が挙がり民俗としてはよいのではないかという意見が大半でした。個人名をどうするか、地図をどこまで提示してよいかについては、聞き取り調査をしながらその時点で話者の方に確認をしていく、書面が必要になるか否かは市の判断を確認しようと考えています。これらのことは、もう少し具体的に刊行の話になってきたときに、個人名のこと、地図のこと、屋号はよいのか等々、大まかなところは市との調整になってくるとお思いますので、よろしくお願いします。以上です。

委員長            ありがとうございました。では最後に、結核療養部会について、黒尾先生お願いします。

結核療養部会長    結核療養部会では、令和 9 年度に刊行が予定されている『清瀬市史 9 結核療養』の目次案を考えながらの基礎作業を進めてきました。

資料集めとしては、『保健同人』という療養雑誌のスキャニング作業を行い、これを財産としていかに利用するかを考えるとところまで来ています。

また、結核という病気がどういうものであったのか、今一度きちんと考える意味で、結核研究所の石川信克先生のご協力を得て、同じ慢性感染症のハンセン病の療養所である全生園もすぐ近くにありますので、比較しつつ考えていこうと思っています。

病院街が形成されていく様子についても、地図や航空写真なども使いながらの示し方を検討しています。長期療養型の療養施設から一般病院に変っていくのですが、そこがハンセン病の施設と違うところで、比較対照するなかで、それぞれの病気の特性も浮かび上がってくると考えています。

部会のなかで最も成果が上がっているのは、文学の分野で、調査が進んでいます。文学者の療養の姿についての調査で、日記、エッセイ、作品から、結核の病状がどういう特徴があるかについてもわかってきています。清瀬市ホームページの「きよせ結核療養文学ガイド ブンガクんと文学散歩」というブログで紹介されていまして、読んでいただくと、結核という病気の特性、なぜハンセン病の患者のように行動させることができなかったのかといったことがわかってきます。

結核療養編は、結核療養のまち清瀬を、より身近に歴史的に感じてもらうために、病院街の沿革史をヴィジュアルに示すことを考えています。

令和 6 年は、清瀬駅開業 100 周年だそうですが、駅開業にともなう鉄道関連用地の調査からも、結核療養とのかかわりが見えてきそうなので、そういったところにも視野を広げていきたいと考えています。

療養施設の周りに商店街が成立してくるのですが、回復した人たちが社会復帰して店を出すということもあったので、民俗編ともかかわってきますが、聞き取り調査も継続してやっていく予定です。

今年行われたユニークなものは、清瀬病院跡地の試掘調査です。病院記念碑の近くから大量の廃棄物、医療廃棄物なども出て来まして、考古学のアプローチで成果が出ているのですが、資料編考古では取り扱うことができないということですので、ぜひ結核療養編で、得られた病院の物的証拠を考古学的手法で資料化して掲載したいと考えています。これについ

ても来年度、予算化していただけたらと思っています。医療器具や生活廃棄物である陶磁器なども出ていますので、それも取り込んでいきたいと思っています。

こんなことをしながら全体の構成について、また、興味深く見て、読める仕上がりにする編集の仕方について、部会で検討を重ねているところです。以上です。

委員長            ありがとうございます。各部会から令和 5 年度の活動についてご報告いただきましたが、ご質問等ございますでしょうか。

委員            ひとつよろしいでしょうか。民俗に関する部分ですが、個人名を出すか出さないかという話は、前回も話が出たと思いますが、できれば個人名を残しておいた方が、あとになって、それが事実かどうかを判断するにはよいと思うのです。話だけだと証拠が何も残らないし、市史に記載されていると、それが正しいと権威づけられるところがあります。ただ、いろいろな問題があり兼ね合いが難しいと思いますが、市史には、ここまでは書ける、というところまでを書き、それとは別に個人に関する記録を残しておく。何十年か経つとまた市史編さんということもあるかもしれないので、そのときには、誰が話したのか、その人はどういう人なのか、ということが分かれば、時間をおいて検証することができる。そういうやり方もあるかと思っています。

民俗部会長            ありがとうございます。今のお話に関連してですが、民俗部会では、聞き取り調査の話者のリストを作ろうと考えています。個人の情報を、名前、生年月日、住んでいる場所、家の職業などを一覧表にして貯めていこうとしています。市史編さん関係では、こうした情報を事務局で管理という例が多いのですが、清瀬市ではどのようにお願いできるのか、そこは調整したいと思っていますのでご検討いただければと思います。  
データとして残して、調査協力者として巻末にお名前を載せることも考えています。どこまでを載せるかは刊行のときに考えなくてはならないと思っています。またご相談することになるかもしれません。地元の方の考え方と外部の者の考えは一致しないところもあるかと思っています。

事務局            掲載にあたっては、掲載許諾をいただいております、文書は市の規則では 30 年保存となっておりますが、30 年経過した時点で見直しがありますので、博物館の永年保存にするようになっています。前回の市史編さんの資料が残っていなかったという反省もふまえ、今回に関しては、次の市史につなげていけるようにしたいと考えています。

委員長            ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

事務局            市史編さん室の職員から、それぞれお話してよろしいでしょうか。

今年度の市史講演会は、現代部会長の黒川先生に講師をお願いして 6 月に行いました。20 人の参加がありました。『市史研究 きよせ』は、第 9 号を編集しました。前後しますが、5 月に市役所ロビーで市史関連刊行物の販売会を行いました。また、「市報きよせ」毎月 1 日号に「清瀬と結核」という連載コラムを設けていました。清瀬駅 100 周年とのかねあい

で、現在、このコラムは一時中断しています。

加えまして、芝山小学校が今年 70 周年を迎えるにあたり児童集会を企画しているという先生から、学校の近くにある病院街の歴史を知りたいということでお声がけいただき、児童集会の実行委員の 5・6 年生に、病院街の形成から今に至るまでについて、また都立清瀬小児病院にあった芝山小学校の分教室について、出張講座でお話をする機会がありました。実際の児童集会には、芝山小学校の卒業生で、中学生のときに小児病院の分教室で過ごした経験をお持ちの方が、全校生徒の前でスピーチをしてくださり、たいへん印象深い集会となりました。この方は、かつて『市史研究 きよせ』第 6 号の聞き取り調査の記事でお世話になった方で、芝山小学校の熱意を市史編さん室からお伝えしたところ、快く応じてくださり、開校 70 周年記念児童集会での「ようこそ先輩」が実現しました。市史の仕事を通じてこうした架け橋となれたことは嬉しいことで、ありがたいことでした。

なかなか更新できないでいますが、編さん室のブログ「市史で候」で、刊行物に親しみを持って手に取っていただけるようにと、今年は資料編近世をもとに、江戸時代の個人の名前について書きました。  
これからも、続けていきたいと思います。

委員長            ありがとうございます。事務局からのご報告について、なにかご意見ご質問ありませんでしょうか。

いまの芝山小学校の行事ですが、市史研究で記録を紹介するといったことは、例えば来年度に、できないでしょうか。ぜひ、そういう人たちを巻き込んで行くことが必要ではないかと思います。

市史研究を、小学生や保護者に手に取ってもらえると思いますので、考えていただけたら幸いです。

事務局            先生方とご相談してみたいと思います。

委員長            ほかに、何かございますか。よろしいでしょうか。

委員              了承

### 3. 令和 6 年度活動計画

委員長            それでは続きまして、令和 6 年度の事業計画について、各部会の先生方からお願いいたします。令和 5 年度の事業報告と関連することも多いかと思いますが、よろしくお願いいたします。

では、まず考古部会について、部会長谷口先生がご欠席ですので、事務局からお願いできますか。

事務局            来年度、強清水遺跡の報告書を発行する準備をいたします。通史編に向けては、4 月に部会を開催する予定ですので、そこで話し合うことになります。

- 委員 長                   では、続きまして古代中世部会について、浅倉先生お願いします。
- 古代・中世部会長       本年度と同様、調査した文書の写真データを整理して市にお渡しできるように作業を進めたいと思っています。大人数でできる作業ではないので、担当してもらえる人を選んで進めていきたいと考えています。
- 所沢市では、滝之城、清戸番所になりますが、この整備計画がありまして、関係資料を見直す計画があります。合わせて通史編の細かい点を、部会を開催しながら検討することを考えております。
- 委員長／  
近世部会長               ありがとうございます。
- 次に近世部会について、私からお話します。
- 近世部会では、来年度中に通史の原稿を執筆することを目的としており、月 1 回程度の会議を開いて内容を調整していく予定です。
- また、資料編の刊行後に新しい資料が見つかっています。ひとつは、現在の香取市にあった岡飯田村が中里を知行していた武蔵という旗本の知行地で、若干資料があるのを見つけました。岡飯田村は、かつては小見川町といわれた利根川沿いの場所です。ほかに、尾張家の鷹場の資料が目白の徳川林政史研究所にありそうだということがわかっております。こうした新史料の確認は、今後、市史編さんの過程で行う必要があると考えています。
- 委員 長                   では、続いて、近代・現代部会の計画について、近代部会長の吉田先生お願いします。
- 近代部会長               来年は近代の資料編刊行の年になりますので、刊行に向けた作業を加速していきたいと思います。毎週土曜日に調査員の学生を集めて作業をしてきました。なかには卒業し就職するものもいるのですが、彼らがやることが次の世代につながっていきますので、継続したいと思っています。
- 翻刻をやりつつ、部会も月 1 回程度開いて、刊行に向けて進めていきたいと考えています。
- 委員 長                   次に、民俗部会について、高久先生お願いします。
- 民俗部会長               来年度も引き続き、それぞれの専門調査員に担当地区の調査に入ってもらう予定です。特にコミュニティや交際、社交を中心に聞き取りを進めていく計画です。
- 令和 5 年度に現代部会の調査員によって郷土博物館で保管していた調査カードのデータ化が終わっていますので、これをもう少し整理していきます。また、これも博物館にあった資料で、明治生まれの方からの聞き取り調査のテープの文字起こし資料がありますので、これを整理している段階です。さらに資料として使えるように整理を進めていきます。
- 野塩でできたように、中里、上清戸、中清戸、下清戸、下宿の各地区で座談会のような形で調査ができないかと考えているところです。ひとりひとりの話者にお話を伺えるように、編さん室から紹介していただく形を今のところとっており、これも継続しますが、調査を活発化する仕組みも考えていきたいところです。

委員長               では、最後に結核療養部会について黒尾先生お願いします。

結核療養部会長       これまで進んでいる部分についてはこれまで通りに進めていきます。加えて今年は、日本社会事業大学の図書館にある患者運動に関する資料の調査をしたいと考えています。

もう一つは、清瀬病院敷地跡の試掘で出た遺物について、完全な調査報告書とまでいかなくとも、ある程度、遺物の実測図や写真を撮っておく必要が出てきます。外注することも含め、考古的な手法で資料化したいと考えています。最終年度でこれを行うのは難しいので、今からその準備をしておきたいと思っています。

今年は部会もなかなか開けなかったのですが、来年度は定期的に部会を開き、進捗状況を確認しながら、一方で章立てや構成を検討しつつ、調査を本格化したいと考えています。

委員長               ありがとうございました。事務局からなにかございますか？

事務局               例年通り、その年に刊行する市史についてサポートをしていくと同時に、通史等に関する事務にあたってまいります。

委員長               ありがとうございました。では、令和 6 年度の事業計画について、なにかご意見、ご質問ありましたらお願いします。  
よろしいでしょうか。

委員               了承

#### 4. 『清瀬市史 5 資料編 近代』について

委員長               『清瀬市史 5 資料編 近代』について、吉田先生お願いします。

近代部会長           来年の 3 月末に刊行予定となっています。内容について、A3 判の資料をごらんください。

口絵から凡例までは、これまでの資料編を踏襲しています。口絵で近代の清瀬のイメージをつかんでもらいたいのですが、問題なのは写真がほとんどないことです。地図を使うなど、作業を進めながら検討していきたいと思います。

全 8 章を考えています。第 1 章「清瀬のすがた」で、地誌などで清瀬がどういう地域だったのかを表します。陸軍がつくった偵察録の清瀬関係の部分、また、明治政府がつくった皇国地誌という明治初期に編さんした資料があるのですが、家文書のなかにその下書きが発見されていますので、そういったものを使いながら描いていきたいと思っています。

土地と同時に人がどうであったのかというところで、国立国会図書館のデジタルライブラリーが充実して、全文検索ができるようになったので、「清瀬」で全文検索するとこれまでヒットしなかった史料が見つかっています。大正末の時期になりますが、東京府の有力者を紹介する一覧があり、人物誌が出ています。清瀬関係で十数人、各地域の有力者の紹介がありますので、ぜひ掲載したいと考えています。

地誌と人物誌の双方から清瀬の姿の時代の概要をつかみたいと思いま



す。

第二章では「清瀬の明治維新」ということで、明治維新が清瀬地域にどのような影響を与えたのか、ひとつは大区小区制という地域の区割りの問題がありますし、あとは、そこで暮していた人たちがどのように政治参加していったのか、あとは税金、地租改正、それに清瀬の人たちがどう対応していったのか、この部分は基本的に公文書と家文書のなかで同時期のもので描いていきたいと思います。明治 26 年まで、清瀬を含む三多摩地域は神奈川県ですので、神奈川とのつながりもしっかり見ながら、清瀬の行政、人々がどうだったのかを描いていきたいと思います。

第三章「自由民権運動と立憲国家の誕生」では、1877 年の西南戦争以降、自由民権運動が活発になっていき、言論空間での闘いになってきますし、さらに明治 14 年の政変で立憲国家をつくっていく、大日本帝国憲法をつくっていく、となった時期に、憲法が公布され施行される明治 20 年前後が、近代日本国家が大きく転換する時期になります。三新法が生まれて地域の形が大きく変わっていく時期になるのですが、そこを意識しながら、三多摩の東京府編入問題もあわせながら、民権運動と政治的な動きを見て行きたいと思います。

近代は対外戦争がひとつ大きな特徴ですので、第四章では「日清・日露戦争と清瀬」ということで戦争や軍事がこの地域にどのように関わってきたのかを描きたいと思います。幸いなことに、清瀬市域の文書群には在郷軍人に関するものが膨大にあることがわかりましたので、かなり描けるかと思っています。今までの在郷軍人会の研究は、在郷軍人会が出していた『戦友』という雑誌の研究だったのですが、それがどう作用していたのかということを、地域単位のレベルで見に行くことができるかなと思っています。あとは軍事郵便が家文書のなかにありますので、戦地のようなすがどのように市域に伝わってきたのか、さらに亡くなった人がどのように慰霊されてきたのか、ここで押さえていきたいと思います。

第五章は「人びとの生活」です。第四章までは政治と社会の話でしたが、この地域は農村地帯だったということで、その実態を家文書から描いていきたいと思います。郷土博物館に、個人の日記資料がありまして、おそらくこれがこの時代を知る基礎資料になると思います。毎日つけられた日記で、膨大な量がありますが、ポイントとなる数年間を載せられればと思っています。今考えているのは、明治末から大正初期くらいですが、いろいろな事が書かれています。例えば明治 43 年に発生した関東大水害の様子であるとか、大正初期ですと、大正天皇が亡くなった前後のこと、日記には富士講に関する記述も多いのですが、ちょうどそのとき富士山に行っていたといったことが書かれています。郷土博物館で一部翻刻されていたあとを学生が翻刻しています。第一級の資料だと思いますのでこれをメインに考えたいと思います。

第六章「農村の大正時代」は、大正期の農村地帯の姿を諸家文書から描いていきたいと思っています。

第七章は教育文化の部分、このなかには宗教、神社とか寺院の話も描いていきます。

清瀬は江戸時代から続く農村地帯でしたが、これが変化し始めるのが、大正後期、関東大震災が発生する前、清瀬市域に鉄道が敷かれる時代からです。これは東京の変化とリンクしていますので、第八章は「帝都近郊の変化」ということで、東京の都市化の波が清瀬に影響し始めて、こ

のあと現代編の時期に入ると病院街ができてきますが、その前段階の時期までを第八章で扱います。

各章ともにそれぞれのテーマがありますので、7 人いる専門調査員で分担しながら史料をチェックし、掲載史料を選定しているところです。部会長の吉田が、全体を総括しますが、分担としては、地誌・人物誌、軍事、戦争、災害、治安その他を吉田が担当し、黒川先生に、行政、農村、社会、教育を、丹治先生に商業、農村を、高久先生に宗教を、山下先生に政治、自由民権運動を、また、郷土博物館の中野さんに交通について担当していただきます。中澤先生には、自治体史の経験者であり、アドバイザーをお願いしています。

今後のスケジュールとしては、4 月上旬から 8 月下旬に原稿執筆、9 月中旬に入稿、年内に初校、再校、1 月に念校、2 月には印刷ができるよう進めていく予定です。

委員長            ありがとうございます。『清瀬市史 5 資料編 近代』についてお話いただきましたが、ご意見、ご質問等いかがでしょうか。

委員            個人の日記資料のお話がありました。書き手の方はどういう方だったのでしょ

近代部会長            ご本人の調査を、これから進めなくてはならないと考えています。中里だということは把握しているのですが、家の背景など基礎データをしっかりさせていきたいと思います。

委員            中里については、古い地図と土地台帳を持っている家もあったと記憶しています。そういったものも見られれば、一帯がどういう状況だったかわかるので、日記を読みとくときに、全体像が見えるのではないかと思います。

近代部会長            日記にはいろいろなことが書いてあるのですが、注意しながら読んで行こうと思います。ありがとうございます。

委員長            ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

委員            了承

## 5. 通史について

委員長            次に、通史について、事務局からお願いします。

事務局            通史上巻は、もともと令和 7 年度刊行ということで話を進めておりましたが、前回の話合いの中で考古部会からそのスケジュールではたいへんに厳しいということでご意見があり、検討した結果、令和 8 年度にかかっても致し方ないかということで、延ばすわけではないのですが、年度をまたいでもなるべく早く出していただくということで、夏ごろであれば印刷製本費も安くなるという話もありますし、令和 8 年度の途中で出す方向で進めていただきたいと思います。令和 6 年度から準備を始め、7 年度中に完成させ、8 年度に入って刊行するといったスケジュール感で

す。

通史の執筆につきましては、活動謝礼ではなく、校正も含め、できあがり 1 ページあたり 1 万円の原稿料を設定したいと考えています。

委員長           ありがとうございます。令和 7 年度刊行予定の通史上巻を、7 年度から 8 年度にかけて刊行していくということと、原稿料として考えたいということでした。すると、部会としての調査はなくなりますか。

事務局           部会の調査については、通史上巻に関係する部会は令和 6 年度中までとし、7 年度に入ったらご相談いただくことにしたいと思います。上巻に関係する 3 部会と、既に資料編を刊行している現代部会の部会長謝礼は令和 7 年 3 月までとさせていただきます。

委員長           これについて、ご意見、ご質問いかがでしょうか。

民俗部会長       通史上巻は令和 8 年度のうちに刊行ということですが、この年は民俗編の刊行が予定されています。予算的なことなどでの影響は民俗の側では考えなくてよろしいのでしょうか。

事務局           けっこうです。通史上巻の印刷製本は 2 か年の契約にしたいと思っており、民俗は令和 8 年度末刊行ということで、2 冊の刊行時期がなるべく重ならないようにしたいと考えています。

委員長           ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

委員           了承

## 6. 市史講演会について

委員長           次に、市史講演会について、事務局からお願いします。

事務局           例年、前年度の刊行物に関連して市史講演会を行ってまいりました。今年度末、資料編考古が刊行されますので、来年度の市史講演会は、考古部会にお願いできればと考えています。

委員長           考古の方でお願いしたいということで、よろしくお願いします。

## 7. その他

委員長           その他の 1) 市史編さん専門部会について、事務局からお願いします。

事務局           さきほどの話と関連しますが、資料編の刊行が終った部会に関しては、部会の調査活動謝礼ならびに部会長謝礼について、令和 6 年度末までとさせていただきたいということです。

今後、民俗部会、結核療養部会の調査活動にその分、予算をまわしたいと考えています。通史下巻に関しては、令和 10 年度刊行ということで変更ありません。下巻もどういった内容にするか、これからご検討いた

だき、民俗、結核療養との調整をお願いしたいと考えています。

委員長            なにかご意見、ご質問ありますでしょうか。

民俗部会長        来年度の各部会の予算は、もう決まっているのでしょうか。

事務局            おおよその分配をしています。刊行が一番近い部会に最も厚く、順番になっています。ただ、既に刊行が終わっている部会も、今後どのような調査が必要かあらかじめ示していただいてご相談、とさせていただきたいと思います。

民俗部会長        定期的に予算の消化状況を確認して、残りの活動日数を考えたいという意見が部会の中であるのですが。毎月でなくとも、2 か月から 3 か月ごとに残額を部会長宛にお知らせいただけると助かります。

結核療養部会長    割り振られている予算というのは、年度はじまりにお示しいただけるものですか。

事務局            まだ議会が終わっておりませんので、議会が終わって 4 月になってからになるとと思いますが、お知らせいたします。

結核療養部会長    清瀬病院の遺物のことがありますので、個別で相談させていただけたらと思っています。

事務局            今まで出されたところも、資料を整理したりということがあると思いますので、できるだけうまく調整させていただきたいと考えています。

委員長            よろしいでしょうか。ほかにいかがでしょうか。  
それでは、その他の 2) 市史編さん室の場所変更について、事務局からお願いします。

事務局            4 月以降になりますが、市史編さん室を博物館の中に持ってまいります。引き続き私も管轄で見えておりますが、新しく古川が博物館と市史編さん室の責任者となります。市の歴史に関して、ふたつの部署が連携していけるよう、資料編の刊行も進んでいますので、これをもとにして展示などにも生かしていく、両者で同じ内容でやっていけるようにしたいと考えています。  
この移転にともないまして、市史編さん室の電話番号が変わります。お手元にお配りした案内の通りですので、よろしくお願いします。

委員長            博物館に移って、市史編さんと博物館の関係がより深められれば、お互いによいものができていくというお話でしたが、ご協力よろしくお願いします。  
他に、委員のみなさまから何かございますか？  
よろしいでしょうか。

委員              了承

委員長            では、次回の委員会について、事務局からお願いします。

事 務 局

次の委員会についてですが、年 2 回ということは変わりませんので、1 回は夏から秋ごろ、2 回目は年度末に近いころに予定したいと考えております。近づきましたら日程調整のご相談をと思っておりますのでよろしくお願いします。

あとは、市民側の委員が少なくなっていますので、改めて新しい方に入っていただくかどうかを含めてどうしていくかということを考えなくてはならないかと思っています。

委 員 長

この件につきまして、ご意見、ご質問なにかございますか？  
よろしいでしょうか。

委 員

了承

## 8. 閉 会

委 員 長

では議事をすべて終了いたしましたので、これで令和 4 年度第 2 回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

◆ 1、『清瀬市史 5 資料編 近代』目次構成

口絵  
編集にあたって  
目次・細目次  
凡例

第一章 清瀬のすがた  
第一節 明治・大正期の清瀬  
第二節 清瀬の人びと

第二章 清瀬の明治維新

第三章 自由民権運動と立憲国家の誕生

第四章 日清・日露戦争と清瀬

第五章 人びとの生活  
・「村野谷吉日記」

第六章 農村の大正時代

第七章 清瀬の教育・文化

第八章 帝都近郊の変化

あとがき

◆ 2、役割分担

吉田律人：総括、地誌・人物誌、軍事、戦争、災害、治安、その他  
黒川徳男：行政、農村、社会、教育、その他  
丹治雄一：商業、農村  
中野光将：交通  
高久舞：宗教  
山下春菜：政治、自由民権運動  
中澤恵子：アドバイザー

◆ 3、今後のスケジュール

2月上旬 役割分担の決定  
2月上旬～3月下旬 史料翻刻・原稿執筆  
4月上旬～8月下旬 原稿執筆  
9月中旬 入稿  
10月上旬～11月上旬 初校  
11月下旬～12月下旬 2校  
1月上旬～1月下旬 念校  
2月 印刷

#### ◆ 4、作業の進捗状況

- ①東京都公文書館東京府文書 筆耕済
- ②博物館所蔵の日記 筆耕途中
- ③陸軍「偵察録」筆耕終了
- ④明治・大正期 清瀬村会会議録 9割筆耕済
- ⑤公示録 必要箇所のみ筆耕済
- ⑥出下家文書 別表参照 筆耕済
- ⑦諸家文書目録掲載の文書 別表参照 選別・筆耕途中